

令和7年度学校評価報告書

令和8年(2026年)3月17日

北海道教育委員会教育長 様

北海道北広島高等学校長 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1	生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個性に応じた将来の進路決定に向けて必要な能力や態度を身につけた生徒を育成する。
2	変わりゆく社会を探究・創造し主体的に学び続けられる生徒を育成する。
3	多様性を認め、他者と協働できる生徒を育成する。
4	心身ともに健康で、思いやりと社会性のある生徒を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
カリキュラム・マネジメントの推進	・「総合的な探究の時間」の企画立案等を主管する新分掌の立ち上げなど、次年度に向けた組織改編を進めることができた。	・アンケート結果をもとに、保護者にも当事者意識の自覚を促すとよい。 ・学習に資する施策、生徒募集に係る施策を振り分けて推進するとよい。
改善方策	・連携協定を締結した星槎道都大学・北海道医療大学・弘前大学や、北広島市・Fビレッジ等との連携を進め、地域の教育資源をより一層生かした効果的な教育活動を行う。 ・配信ツールの更なる活用と、HP等の積極的な更新・発信を計画的に行う。 ・教育活動を適切に評価・改善できるよう、学校と保護者の共有を強化する。	
地域の信頼に応える学校づくり	・北広島市と連携し、市内全ての保育園・幼稚園・小中学校でインターンシップを実施することができた。 ・Fビレッジ等との連携事業も増え、生徒の新たな体験活動を創出できた。	・各種におけるボランティア活動の参加目的を明確にし、募集していただきたい。 ・近年の気候変動に対応した、学びの環境整備を検討してほしい。
改善方策	・関係各所と連携を密にし、より多くの生徒が参加できる体制を整備する。 ・冷暖房設備は、予算を鑑みながら可能な範囲で引き続き検討・整備していく。	
きめ細やかな指導や支援	・SNSが絡むトラブルでは、該当者への丁寧な聞き取りで、全容解明に努めた。 ・生徒支援委員会等を活用して、支援が必要な生徒を把握し支援策を準備できた。	・保護者と学校の関係には、家庭環境も背景にある。専門家の意見を提示して関係構築を図っていく。
改善方策	・SNSの適切な利用についての啓発を、継続して実施する。 ・悩みを抱える生徒が専門機関に繋がるような積極的なアプローチを継続する。	
組織的・系統的なキャリア教育	・授業改善に継続して取り組んだ。 ・課外講習、進路ガイダンス、保護者進路説明会等を計画的に実施できた。 ・外部講師講話、インターンシップ等で、生徒の視野を広げることができた。	・AIは使いこなすための基礎学力が必要である。本校は学びの積み上げを重視する校風が醸成されている。 ・保護者との対話も大切にいただいている。進路の道筋が見えやすい。
	・大学入試の多様化に対応できるよう、本校が蓄積してきた進路指導を不断に見直す。 ・「こどもまんなか」学び創出事業推進委員会を設置し、学びへの興味・関心や主体性・協働性などを育む教育実践を推進する。	
公表方法	(1) 学校公式サイトへの掲載 (2) PTAだより(令和8年度)への掲載	

3 添付資料

令和7年度 北海道北広島高等学校 学校評価書